



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/1 (月)	+ 600	▲ 19,900	▲ 19,300	国債発行償還 (2年) 国庫短期証券発行償還 (3M)	成長基盤強化支援 ▲2,400 国債補完供給 800		欧：ユーロ圏製造業PMI (8月) ：ユーロ圏失業率 (7月)
9/2 (火)	+ 1,000	▲ 15,000	▲ 14,000				日：氷見野日銀副総裁の講演 欧：ユーロ圏CPI (8月)
9/3 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	法人税・消費税・保険掛け 普通交付税交付金 国債発行 (10年)	共通担保資金供給 ▲ 8,000		欧：ユーロ圏サービス業総合PMI (8月)
9/4 (木)	トン	+ 5,000	+ 5,000				米：ADP雇用統計 (8月) ：貿易収支 (7月) 欧：ユーロ圏小売売上高 (7月)
9/5 (金)	▲ 1,000	▲ 10,000	▲ 11,000	国債発行 (30年)			日：コール市場残高 (8月) 米：雇用統計 (8月) 欧：ユーロ圏GDP (2Q、確定値)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5,300億円増加の524兆0,300億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、8月29日は523兆6,700億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.460%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.525%～0.700%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、9月2日に氷見野日銀副総裁の講演、海外では9月2日にユーロ圏CPIの公表、5日に米雇用統計（8月）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.525 ～ 0.60
2M	0.54 ～ 0.65
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

<レポ>

足許GCは週央まで+0.49%～+0.495%のレンジで取引された。取引が月末過ぎとなる28日には、前場は+0.40%台前半まで低下した。後場はbidが一巡した後、+0.47%台まで上昇した。発行が重なる翌29日の取引では、再び+0.49%～+0.495%のレンジでの出会いとなった。

SC取引は2年470～475回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆8,309億円で、週間償還額の3兆3,955億円を下回った。発行残高は先週末時点の26兆1,789億円から、8月28日時点で25兆9,945億円に減少した。発行市場は、月末の大量発行と、不動産、食料品、電気業など幅広い業態で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出会い、3か月物では0.60%台前半を中心に出会いが見られた。

来週の償還額は1兆270億円となっている。発行市場は、月初で案件は少なく、比較的落ち着いたマーケットになると予想する。発行レートは、一部では早期利上げを織り込む動きがあり、引き続きレート水準を探る展開が見込まれるだろう。

<TDB>

29日の3M（1328回債）の入札は、最高落札利回り0.4818%（前回債0.4607%）、平均落札利回り0.4742%（前回債0.4508%）となった。

来週の入札は9月5日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。